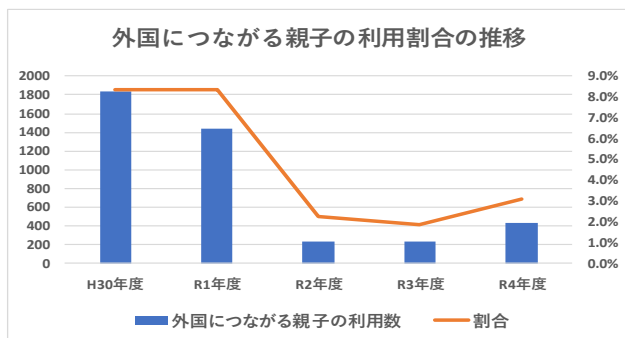
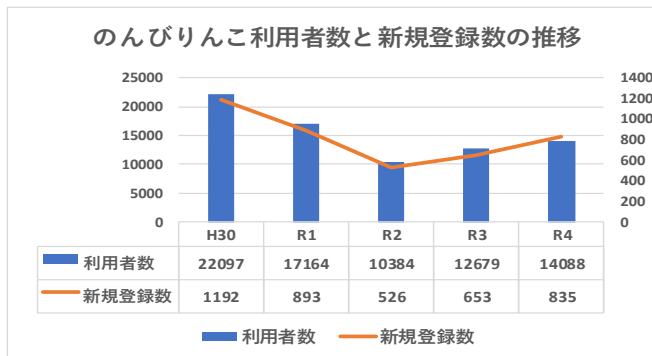
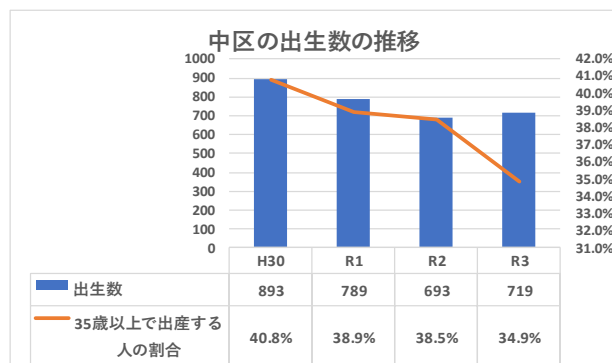


1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・外国につながる親子が孤立化しないよう、より身近な居場所の一つとして寄り添った対応が出来るよう取り組んでいく。 ・妊娠期からの利用がさらに促進出来るよう、子育て世代包括支援センターの取り組みを通して区と共に取り組んでいく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	B
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)【実績統計】



1日の平均利用数 H30年度 子ども43.9人 大人42.4人 R4年度 子ども28.4人 大人28.0人
 父親の利用率 H30年度 平日 3.2%・土日 19.6% R4年度 平日 7.1%・土日 24.7%
 プレパパ&ママ利用率 H30年度 0.4% R4年度 2.8%

【R4年度ののんびりんこに関するアンケート】(202人回答:母親87.1% 父親12.4%)

- ・利用開始時期
 - 1) 産後～6か月 43.3%(87人)
 - 2) 6か月～11か月 23.9%(48人)
 - 3) 妊娠中から 13.9%(28人)
- ・保護者の年齢層
 - 1) 30代 63.4%(128人)
 - 2) 40代 20.8%(42人)
 - 3) 20代 15.8%(32人)
- ・利用こどもの年齢
 - 1) 1才 40.1%(81人)
 - 2) 0才 35.1%(71人)
 - 3) 2才 8.3%(37人)
- ・保護者の就労状況
 - 1) 育休中 37.6%(76人)
 - 2) 仕事はしていない 35.1%(71人)
 - 3) 就労中 27.2%(55人)
- ・利用目的
 - 1) ひろばで遊ばせる 94%(189人)
 - 2) 子育て情報の入手 49.3%(99人)
 - 3) リフレッシュ 39.8%(80人)
- ・利用後の感想
 - 1) リフレッシュ出来た 68.2%(137人)
 - 2) 子育てに役立つ知識や情報が得られた 54.7%(110人)
 - 3) 子どもの成長の見通しが持てるようになった 43.3%(87人)
- ・スタッフから温かく迎え入れる声掛けや利用者同士が交流しやすくなる声掛け等、ひろばを安心して利用出来る関わりがあったか

あった 98%(197人)

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

<p>1 利用のきっかけづくりと職員の丁寧な関わり</p> <ul style="list-style-type: none">・妊娠中から拠点を利用出来るよう、毎月妊娠中の家族を対象として沐浴体験やたまごの会などを実施し、ひろば利用の親子との交流を行い産後の利用につながるようにしている。・地域で行われている赤ちゃん学級や子育てサロン、両親学級、4か月児健診などに職員が継続的に訪問し、利用のきっかけとなるよう情報提供を行っている。・オンラインを活用し(オンラインでおしゃべりタイムや子育て講座のハイブリット型開催)、拠点の様子を伝え来所のきっかけとなるよう事業を実施している。・初来館者や孤立している親子へ職員が意識的に声を掛け、ニーズを探り他の親子との交流や情報提供を行うことなど丁寧な関わりが出来るよう取り組んでいる。 <p>2 利用者同士の交流、多様な世代、性別、国の方が交流出来る場として</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者同士の積極的な交流の場として参加型イベントの「ホッとおしゃべりサロン」や「赤ちゃんと一緒におしゃべりタイム」などを行いテーマ別の情報交換が出来る事業を実施することで継続利用にも繋がっている。・関係機関(運営法人や地域の施設、機関、学校)と連携し、小学生～大学生、留学生、社会人(中途離職者含む)、シニア世代などのボランティア活動、職場体験、実習などを行い、親子に限らず様々な利用者との交流や相互理解が図られるよう取り組んでいる。・中国につながる親子を対象に「中国語を母語とする人のための妊婦教室」「麒麟の会」を実施し、来所のきっかけづくりを行うと共に拠点利用者との交流が図られる場となっている。・土曜日に父親や家族で参加できる事業を実施すると共に日曜日開館を定期的に行い、就労家庭や様々な家庭が利用しやすいよう取り組んでいる。 <p>3 利用者の声を活かした事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none">・各事業実施後にアンケートを行い、ニーズを把握し開催事業の内容改善、企画に活かしている。また利用者の声から「40代ママの会」「にじいろ～発達に気になる子のおしゃべり会～」「おしゃべりの会～ダウン症児の親子の会～」を実施し、課題や利用者の声を区や関係機関と共有している。・毎日の職員同士の振り返りで対応について協議し子どもの様子や利用者の声を共有している。また毎月のスタッフ会で地域訪問や研修、見学で得た情報についても職員全員で共有し、事業内容の改善や企画、日頃の対応に活かしている。 <p>4 親子が共に育つ場として</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者の対象に応じて、ひろばや研修室のレイアウトの変更など臨機応変に実施している。・子どもの育ちが促されるよう季節に応じた工作等を用意したり、子どもの気持ちを代弁するなど、親子の関わりについてスタッフが意識して声を掛けたり、親子の関わりが促されるよう対応の工夫をしている。・ひろばの中で日常的に利用者同士の交流や情報交換が促されるようスタッフが関わっている。また、当事者同士の支え合いや学び合いを通じて、親自身が共に成長出来るよう「ホッとおしゃべりサロン」等の参加型の事業を行っている。・子育てに活かせる知識を得る機会として専門家による子育て講座を計画的に行っている。また、オンラインを活用して来所が困難な親子も参加できるよう事業を実施している。
<p style="text-align: center;">評価の理由(区)</p> <p>①親子の集まる場(赤ちゃん学級、乳幼児健診)に拠点スタッフが出向く機会を調整したり、イベントのチラシを手に取りやすい工夫をしたりするなど、拠点参加へのきっかけづくりに力を入れた。スタッフ一人ひとりが多様な利用者への理解を深められるよう研修を実施し、対応力向上に取り組んだ。</p> <p>②妊娠期から拠点利用につながるよう、子育て世代包括支援センター連絡会で事業実施に向けて検討し、マイカレンダーの修正を行った。母子手帳発行時に「沐浴体験」「たまごの会」について説明及びチラシを配架し、妊娠期から拠点利用ができるよう促した。両親教室の中で拠点見学を実施し産後の拠点利用の動機づけを行った。「麒麟の会」に母子保健コーディネーターや通訳の派遣を調整し、外国につながる親子の孤立化防止を図った。</p> <p>③1月～3月に乳幼児健診対象者等に実施したアンケートから養育者の多様なニーズを把握し、拠点と共有することができた。把握されたニーズや必要な支援について地域と今後の支援のあり方を検討する場(子育て支援ネットワーク連絡会)を設けた。</p> <p>④妊娠期から幼児まで親子が楽しく安全に過ごせる環境整備について再確認できる機会として研修を実施した。定例会で親育ちや子育てを支援する事業(母子保健事業や子どもの権利擁護など)の取り組みや内容について共有するとともに随時、事業見学を調整した。</p>
<p style="text-align: center;">拠点事業としての成果と課題</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none">・研修等を通して多様な利用者への理解が深まり、それぞれが利用しやすいように寄り添い、個々のニーズに応じて柔軟に対応できるように取り組んでいる。・多様な養育者が孤立しないようスタッフが意識的に声掛けをしたり、丁寧な対応を行い利用者同士の交流を促すなど、身近な居場所として感じてもらえるよう取り組んでいる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・遠方で来館の難しい親子の居場所を地域と連携しながら検討していく必要がある。・就労家庭が増えている背景を踏まえ、乳児期以降の利用者に向けた様々な取り組みを工夫していく。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・日々変化する情報や多様化する相談について、スタッフのスキルアップが図られるよう継続的に研修の機会を設ける。 ・利用者への対応の仕方や利用者支援事業への連携について、スタッフで共有しながら、より適切に判断できるように取り組む。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

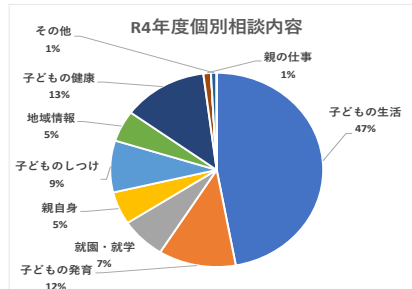
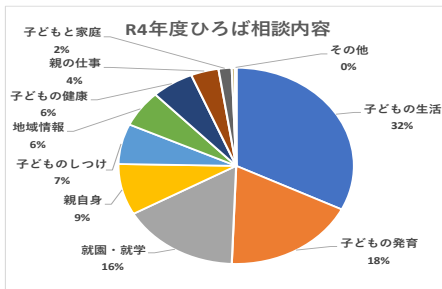
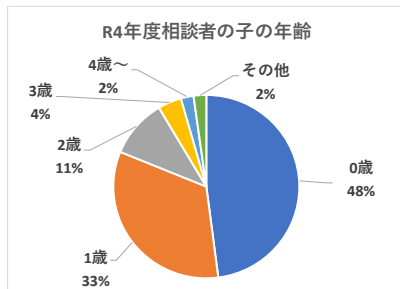
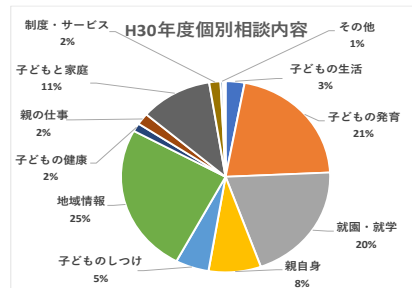
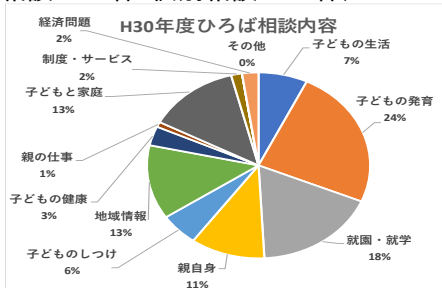
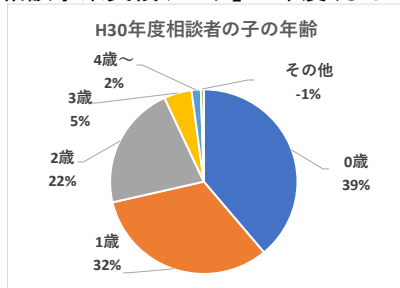
(主なデータ)

【R4年度のんびりんこ子育てに関するアンケート調査】回答者数:446人

子育てに関してどんなことに興味があるか

1.食事の事 43.7% 2.しつけや注意の仕方 38.7% 3.生活リズム 30.7%

【相談事業実績データ】R4年度(ひろば相談 452件・個別相談 359件)



【R4年度ひろばでの気軽な相談年間実施回数】

保育士:35回 カウンセラー:24回 助産師:12回 栄養士:12回 歯科衛生士:6回 保育・教育コンシェルジュ:4回

1 寄り添った対応と気軽に相談できる場として

- ・スタッフは身近な支援者として親子に寄り添い、傾聴の姿勢で関わっている。また親子が自身のニーズを出しやすいような声かけを行うなど、気軽に相談が出来る場となるようスタッフが意識して関わっている。
- ・専門家による気軽な相談日や「離乳食講座」「子どものむし歯予防」「アレルギー講座」など子育て講座を定期的に設け、状況に応じてオンラインや電話対応を行うなど臨機応変に対応している。
- ・専門家による子育て講座を実施する前にアンケートを取り、講座の内容に活かしている。また講座内で個別の質問や相談が出来るよう工夫をしている。
- ・不安や悩みの軽減が図られるよう利用者同士の情報交換や支え合い活動として「にじいろ～発達が気になる子のおしゃべり会～」「おしゃべりの会～ダウン症児の親子の会～」「40代ママの会」テーマ別の「ホッとおしゃべりサロン」などを行っている。

2 利用者支援や関係機関との連携と継続的な関わり

- ・相談を真摯に受け止め丁寧な対応が出来るように、日々の関わりの中で得られた情報や相談内容の傾向、親子の様子をスタッフ間で共有し対応の仕方のスキルアップを図っている。
- ・「傾聴」や「多様な家庭の理解」などの研修を行うと共に関係機関の事業の見学、情報共有を通してスタッフの知識、技術の研鑽が図られるよう取り組んでいる。
- ・相談内容に応じて利用者支援事業と協力して関係機関へ情報提供を行うなど、適切な支援につながるよう連携を図りながら取り組んでいる。その後もひろばでの見守りなど継続的な関わりをしている。

評価の理由(区)

- ①
 - ・こんにちは赤ちゃん訪問員や母子訪問員が訪問先で、拠点の相談機能について周知し利用を促した。
 - ・親子の多様なニーズを総合的にサポートできるよう専門職(栄養士、保育士、歯科衛生士、保育・教育コンサルジュ等)の派遣を調整した。
- ②
 - ・定例会で情報共有した事例について専門機関や地区担当へつなぐ等、連携を図った。
 - ・拠点スタッフに区の事業を知ってもらうために事業見学の調整をした。
 - ・知識や技術の研鑽のため、相談環境や相談対応について研修を実施した。
 - ・拠点と関係者が連携できるように必要な会議への出席調整を行った。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・相談者に寄り添い、個々に合わせた地域資源等の情報提供を行っている。また継続的に見守り、ひろば利用時には適切な対応ができるようにしている。
 - ・利用者同士の情報交換の場として事業を課題別に展開しており、ピアサポートを効果的に進めている。
- (課題)
- ・多様化する相談の対応方法や関係機関への連携についてスタッフのスキルアップを図られるよう継続的に研修の機会を設ける。
 - ・親子の健やかな成長を促せる関わりができるよう、効果的なアプローチについてスタッフ間で連携をはかりながら共通認識をもって取り組んでいく。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・外国人へ向けた情報収集・提供の仕方については検討し取り組んでいく必要がある。 ・当事者が情報を入手出来る場の開拓をさらに進め、より多くの区民へ情報が届くよう取り組んでいく。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

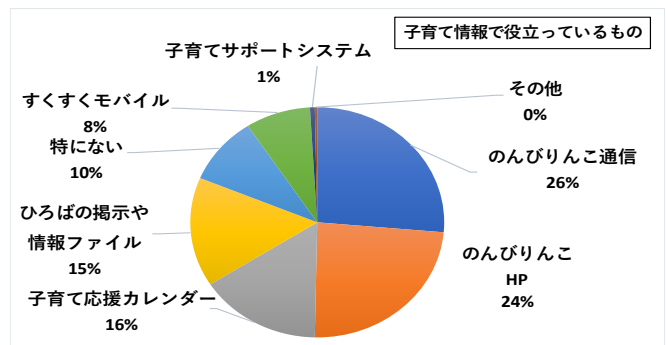
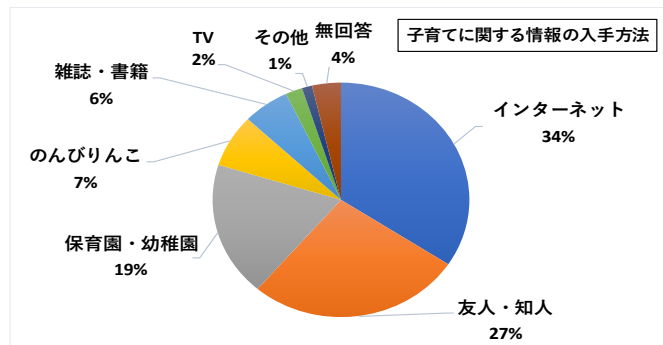
【中区幼稚園説明会】R4年度 205組参加(うち126組はオンライン)※ H27年度から毎年実施(R2年度、3年度はコロナのため中止)

【すくすくモバイル登録者数】 H30年度末 729人

R4年度末 798人

【R4年度子育てに関するアンケート】回答者数:446人
子育てに関する情報の入手方法

【R4年度のんびりんこ利用者アンケート】回答者数:202人
子育て情報で役立っているもの



・のんびりんこ通信・サポーターズ通信:横浜市各施設145か所(うち中区内施設39か所)に発送

1各施設からの子育て情報収集と提供

- ・幼稚園協会や中区保育施設等合同園長会を通じて、幼稚園・保育園の情報を入手し利用者へ提供している。また各幼稚園から収集した情報を基に「中区幼稚園見学/イベント情報」を作成し「はじめまして幼稚園～中区の幼稚園説明会～」で提供している。
- ・区内の各施設や団体から子育て情報を収集し「中区子育て応援カレンダー」(毎月)、「すくすくモバイル」(週1回)「のんびりんこ通信・サポーターズ通信」(隔月1回)で提供している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大後はSNSを活用するとともにブログを毎日更新し、来所の困難な方に向けてひろばの様子や子育て情報を発信している。
- ・利用者が必要としている情報が入手しやすいよう、拠点内の情報コーナーをテーマ別に配置している。また、区内の保育施設や子育て関連施設の情報については地域マップを活用し掲載している。

2養育者や担い手に情報の集約・提供の拠点であることを周知

- ・スタッフが4か月児健診や両親学級、子育てサロン、赤ちゃん学級などに出向き、養育者に対して地域の子育て情報を提供するとともに拠点の情報収集・提供機能について周知している。
- ・地域の施設や支援関係者に対して地域の子育て情報の収集を行うとともに、子育て情報の発信ができることを伝え取り組んでいる。

3養育者や担い手が拠点の情報収集発信に積極的に関わることができる仕組みづくり

- ・「すくすくモバイル」や「のんびりんこ通信」で子育て情報が発信できるよう地域の施設や団体と連携し取り組んでいる。
- ・「サポーターズ通信」は養育者が編集会議に参加し企画・立案・取材に関わることで当事者目線の情報発信となっている。
- ・養育者が自らの情報を提供できるようロコミファイル(病院情報・レシピ・アレルギー・幼稚園・保育園情報)を作成している。
- ・外遊び応援事業や子育てサークル体験&見学会を実施する際に子育てサークル関係者が情報提供できる機会を設けている。

評価の理由(区)

- ①
- ・区のホームページを使って拠点の事業をPRしたり、おでかけスポットマップに拠点について掲載するなど、幅広く周知を行った。
 - ・養育者が地域の子育て情報を収集できるよう、子育て応援カレンダーを区役所窓口や乳幼児健診会場、赤ちゃん学級会場で配布した。
 - ・拠点スタッフが両親教室、赤ちゃん学級、4か月健診などで拠点の情報提供ができるよう調整した。
 - ・すすくモバイルの内容に関して確認し、適宜助言を行った。
- ②地域の関係団体と連携できるよう、合同園長会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会、地域活動交流コーディネーター連絡会等への参加調整を行った。
- ③養育者や担い手の情報提供や収集について助言や協力をを行った。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・当事者の声を活かした情報を発信できるように取り組んでいる。
 - ・当事者を巻き込んだ情報発信に取り組むことで親自身の育ちに繋がっている。
 - ・地域に出向き、関係機関団体と顔が見える関係づくりに力を入れている。
- (課題)
- ・より多くの区民に必要とした情報が届くように情報発信について引き続き検討していく。
 - ・拠点の情報収集・提供事業の具体的な取り組みについてさらに周知していく。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ ネットワークを活かして情報を収集し、を養育者や担い手に提供しているか。
- (成果)
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・妊娠期から切れ目のない支援の充実が図られるよう、更なるネットワークの構築を進めていく必要がある。 ・子育て応援ボランティアについては、地域の子育てを温かく見守る人をさらに増やしていけるよう、地域との調整を行いながら、活動の場をさらに広げられるよう取り組んでいく。	B	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	A
☆児童虐待防止推進月間について、広く地域に啓発出来ている		A	A
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>【R4年度ネットワーク会議参加状況】 子育て支援者定例会(月1回)、育児支援会議(年6回)、区内地区計画推進会議(年6回)、保育施設等合同園長会(年6回)、要保護児童対策連絡会(年2回)、こども食堂ネットワーク会議(年2回)、生活困窮者自立支援定例調整会議(年2回)</p> <p>【R4年度主な地域訪問状況】 子育てサロン(7会場)、親子のひろば(4会場)、赤ちゃん学級(7会場)等</p> <p>【R4年度協働事業実施内容及び実績】 横浜市幼稚園協会中支部(幼稚園説明会)、保育所4園(どろ遊び、水遊び、公園遊び)、みなと総合高校(高校生とあそぼう2回)、地域ケアプラザ・ヘルスメイト(食育講座)、中区歯科医師会(むし歯予防講座2回)、スポーツセンター・地域ケアプラザ(体験ツアー)、みなと赤十字病院(アレルギー講座2回)、中消防署(幼児安全法・支援者向け安全講習)</p> <p>【R4年度子育て支援ネットワーク連絡会参加メンバー】 主任児童委員、民生委員・児童委員、保育所、幼稚園、赤ちゃん訪問員、親子のつどいの広場、子育て支援者、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、商店街会長、中区福祉保健課など (事務局:拠点、こども家庭支援課)</p> <p>【R4年度児童虐待防止推進月間での取り組み】 利用者のメッセージカード記入と掲示(38名)、オレンジリボン及び啓発リーフレットの配布(100名)、法人全職員がオレンジリボンを着用し啓発</p> <hr/> <p>1 ネットワーク構築、推進を図る取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や区の様々なネットワーク会議において、子育て家庭の支援ニーズを関係施設や団体と共有すると共に拠点の機能を伝え連携の促進が図られるよう取り組んでいる。その積み重ねから、子育て応援ボランティアを地域につなげたり、親子を身近な地域の子育て支援の場につながる事が出来る協働事業の実施につながっている。 ・地域で行われている子育てサロン、親子のひろば、赤ちゃん学級などにスタッフが出向き、施設や地域の支援者との関係づくりを深め、利用者を相互に繋げると共に地域の施設や支援関係者と情報や課題の共有、相談対応を行っている。また情報提供を受け地域情報の発信をすることが出来ている。 ・子育てサークルの研修や体験会、交流会の支援を行うと共に活動の推進、強化が図れるようサークルメンバーの募集や広報について一緒に取り組んでいる。 ・子育て支援ネットワーク地区別連絡会において地域の関係施設、団体、支援者と情報や課題の共有を行い、関係者同士の連携、ネットワークの構築に取り組んでいる。参加者が新たな団体や関係者と意見交換することで地域の中での連携の必要性を感じる事が出来ている。 <p>2 利用者を地域へつなぐ取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設や団体から得た情報について拠点の情報コーナーやSNSを活用して発信し、利用者が地域で行われている事業(地域の子育て支援・子育てサークル活動・こども食堂など)に関心が持てるようにしている。 ・地域の施設や団体と協働して事業を行い、利用者が身近な地域の子育て支援の場につながるきっかけとなるようにしている。 ・子育て応援ボランティアの説明会参加者へ向けて、ネットワークを活用し地域の子育て支援の場につながるよう取り組んでいる。 <p>☆児童虐待防止推進月間の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジリボンキャンペーンを区と共に取り組み、法人全体として賛同し広く啓発を行った。ひろばにおいて、利用者からのメッセージカードを互いに読み合うことが出来るよう掲示し、児童虐待防止の啓発と共に日頃の子育ての喜びや励みになるよう取り組んだ。 			

評価の理由(区)

- ①
- ・子育て支援ネットワーク連絡会の準備会を開催し、地域の関係者と共に区内の現状と課題の共有を行い、今後の連絡会のあり方について協議した。
 - ・子育て支援ネットワーク連絡会開催に向けて連携を図るために様々な会議に出向き趣旨の説明と参加を促した。
 - ・関係機関同士の打合せを重ねていき、地区の分析をして資料を作成した。また先行エリアでの地区別ネットワーク連絡会を実施した。
- ②
- ・ボランティア活動希望者を保育所や拠点等につなげた。
 - ・子育てサークルリーダー研修の企画について拠点や地域振興課と協働で実施した。また身近な地域の子育て支援の場へつながるように子育てサークル情報の提供などを通じて地域の活動が活性化するよう取り組んだ。
- ☆虐待防止推進月間の取り組み
- ・児童虐待防止推進月間の啓発活動に向けて拠点に関わる利用者や支援者に周知を行った。子育て中の養育者同士の思いを共有しやすい方法等を拠点と共に考えた。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・地域の関係機関団体と連携し、顔の見える関係の構築、ネットワークの推進が図られるよう取り組んでいる。
 - ・子育て支援活動に関心のある区民に対してネットワークを活用し、地域の子育て支援の場につながるよう取り組んでいる。
- (課題)
- ・子育て支援ネットワーク連絡会を通して、地域の子育て支援関係者との連携を強化し、さらなるネットワークの推進を図る。
 - ・新たな地域資源とのつながりを構築していくことで、親子が地域につながる場を増やしていく。

振り返りの視点

- ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。
- エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。		A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。	・子育て家庭を温かく見守る地域の更なる醸成を目指し、拠点で取り組む事業を地域へ向けて発信し、広く啓発していく必要がある。 ・区民に地域活動の大切さを伝え、さらに活動参加へ繋げるには、地域の特性を活かした取り組みを行っていく必要がある。	B	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B
評価の理由(法人)			
(主なデータ) 【R4年度研修実施内容(参加数)】 ・支援者対象:「幼児安全法(27人)」「親子への関わり方(22人)」※毎年2回、地域で子育て支援に関わる方に声を掛けて合同研修を実施 ・拠点職員対象:「これからの子ども・子育て支援」「個人情報保護」「不審者対応訓練」「ひとり親家庭の支援について」「幼児安全法」「感染症について」「対人援助理解」 【R4年度ボランティア活動実績】 213件(延べ活動者数 102人・うちシニアボランティア 46人・中高生ボランティア 11人) 【R4年度子育て応援ボランティア説明会実績】 説明会開催数12回・参加者7名(活動希望内訳:ひろば3名・横浜子育てサポートシステム2名・障がい児者訓練会1名・子育てサロン1名) 【R4年度地域資源との連携による交流・実習実績】 横浜中央YMCA放課後児童クラブ(小学生)との交流・みなと総合高校交流保育体験・横浜YMCA学院国際情報ビジネス科(留学生)の実習受入・大学実習受入(関東学院大学看護学部・県立保健福祉大学看護学科・鎌倉女子大学管理栄養学科・相模女子大学管理栄養学科・関東学院大学栄養学部・桜美林大学公認心理師コース)			
1 地域の担い手を支える取り組み ・地域で子育て支援に関わる方(こんにちは赤ちゃん訪問員・主任児童委員・子育て支援者・子育て応援ボランティア・中区保育ボランティアグループ・子育てサポートシステム提供会員など)を対象に研修を行い、担い手のスキルアップが図られるよう取り組んでいる。 ・子育てサークルの情報や課題の共有を行い、リーダー研修会の実施を行うと共に会員募集について協働で取り組み、各団体の活動を支えることが出来るようにしている。 ・子育て支援ネットワーク連絡会の開催を通して、地域の支援者同士のネットワークが広がるよう取り組んでいる。			
2 新たな担い手を養成する取り組み ・子育て応援ボランティア説明会を毎月開催し、子育て支援に関心のある方を受入れ、ひろばのボランティア活動や横浜子育てサポートシステム提供会員、ネットワークを活用して地域の子育て支援の場につないでいる。 ・利用者が様々な事業を通し、他者に関心を寄せ、先輩パパ・ママとして支える側の経験が出来るよう取り組んでいる。			
3 子育て家庭を温かく見守る取り組み ・子育て家庭を温かく見守る地域の雰囲気が醸成されるよう、児童虐待防止推進月間(オレンジリボンキャンペーン)やピンクシャツデー(いじめのない社会をめざす運動)、平和月間(平和について考える取り組み)など、拠点内で利用者を交えて取り組むと共に通信やHP、SNS等で地域へ向けて発信している。			
4 これから子育て当事者となる市民への取り組み ・両親学級や妊娠中の家庭を対象とした「たまごの会」、中国語を母語とする人を対象とした「麒麟の会」「中国語を母語とする人のための妊婦教室」において、これから親になる人と拠点利用者親子が交流を行い、子育ての知識や産後の生活について学ぶ機会を設けている。 ・小学生から大学生、留学生、社会人など、様々な世代や国の人々が訪れ、見学や実習、ボランティア体験等の交流を通して親子と関わり、子育て支援や子育てについて関心が持てるよう取り組んでいる。			

評価の理由(区)

- ①・定例会において相互で実施する研修目的や内容の共有を図り、支援者のスキルアップ支援を行っている。
- ・子育てサークルリーダーの新たな人材育成に向けて他課と連携し、課題の共有を図っている。子育てサークル体験と見学会の中で研修を行い、子育てサークル活動の意義等を伝えている。
- ②・子育て応援ボランティアの募集について広報よこはま中区版、関係団体(地域ケアプラザ等)への周知協力を図っている。
- ・乳幼児健診、赤ちゃん学級などで子育てサークル等の情報発信を行い、新たな参加のきっかけを作っている。
- ③・オレンジリボンキャンペーンを通して子育て家庭を温かく見守る雰囲気づくりに取り組んでいる。
- ・人材育成に関する拠点の役割や取り組みについて主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員の定例会などで伝えている。
- ・子育て支援ネットワーク連絡会を拠点とともに立ち上げた。連絡会を通して、地域で子育て支援に携わる方々の人材育成また連携強化を図っている。
- ④・両親教室のプログラムで区から拠点の見学ツアーに案内し妊娠期からつなげられるように取り組んでいる。
- ・母子手帳交付時に拠点事業(「沐浴体験」や「たまごの会」)の効果的な周知を行っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・地域の子育て支援者向けに研修会を実施し、担い手を支える取り組みを継続的に行っている。
- ・子育て応援ボランティアの周知を行い、活動希望者を地域につなげたり、拠点の活動に日常的にボランティアが関わりを持てるように取り組んでいる。

(課題)

- ・地域の学生ボランティア受け入れに向けて区内の学校と連携していく。
- ・地区分析やネットワークを活用して、地域の子育て支援に関するニーズの変化を捉えていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- キ 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

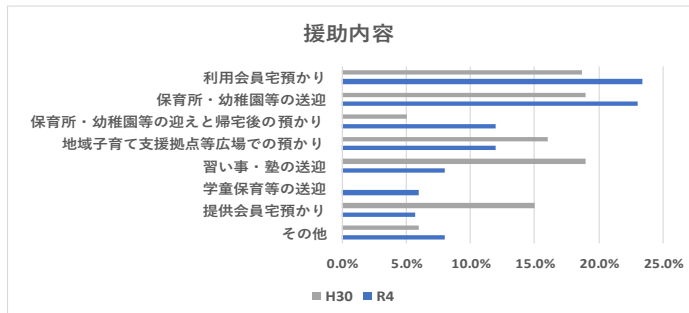
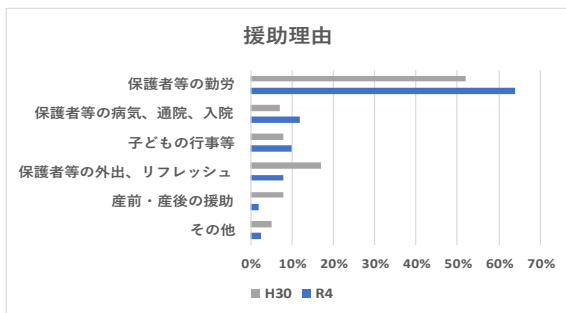
目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・更なる会員確保に向けて、周知を継続的に行う。また会員数の少ない地域については、特に周知の強化を図る必要がある。	A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

【R4年度子育てに関するアンケート】横浜子育てサポートシステムを知っている 70.2% (313人)

- ・会員数 H30年度末:678人(利用会員556人、提供会員85人、両方会員37人)
R4年度末:737人(利用会員615人、提供会員89人、両方会員31人)
- ・活動件数 H30年度:2255件(平均188件/月)→R4年度:3417件(平均285件/月)
- ・ひろば預かり件数 H30年度:359件(平均30件/月)→R4年度:409件(平均34件/月)
- ・入会説明会開催状況 R4年度:集団26回・個別38回・出張9回



1 周知活動と提供会員獲得の取り組み

- ・HPや広報等を活用して幅広く区民に周知するとともに、区の赤ちゃん学級や両親教室、4か月児健診、地域の子育てサロン等へスタッフが外向き、子育て世代に向けて周知した。
- ・拠点でのひろば預かりを通して、拠点利用者が実際の活動の様子を見ることで、利用や活動のきっかけにつながるよう取り組んでいる。
- ・子育て応援ボランティア説明会にて提供会員の活動を紹介している。また、提供会員募集のチラシを区内の小中学校を通して、学齢期の子のいる家庭へ配布し、提供会員・両方会員獲得へ向けて取り組んでいる。
- ・幼稚園・保育園園長会、小学校・中学校校長会、中区PTA連絡協議会、中区連合町内会を通じて、提供会員募集について周知した。また地域の主任児童委員や民生委員、こんにちは赤ちゃん訪問員等にも周知の協力をいただいている。

2 養育者の状況に合わせた臨機応変な対応

- ・緊急で援助が必要な場合や、外国につながる方など配慮が必要な養育者に対して個別で入会説明を行うなど丁寧に対応している。
- ・養育者の疾病等で緊急を要する依頼に対し、迅速に対応するとともに、必要に応じて複数の提供会員を紹介するなど、依頼者に寄り添った対応ができるよう取り組んでいる。

3 会員活動を支えるきめ細やかなフォローアップ

- ・事前打ち合わせの際にコーディネーターが同席し、細やかな事も確認することで、提供会員・利用会員双方に不安のないよう信頼関係づくりを丁寧に行っている。また、業務日誌を活用しスタッフ間の情報共有を行っている。
- ・提供・両方会員交流会を定期的開催し、会員同士の交流や情報交換を通して、不安の解消を図るとともに活動の意義を感じながらサポート活動ができるようにしている。
- ・会員に対して必要に応じて活動の様子や子どもの様子等を聞き取り、安心して活動や利用ができるようにしている。また、提供・両方会員に対して日ごろの活動に活かせる「幼児安全法」や「親子へのかかわり方」の研修を行った。

4 区や関係機関と連携した家庭支援

- ・子育て相談や支援が必要な家庭には、利用者支援事業と連携をし対応している。また、毎月の定例会にて活動状況の報告を行い、区と情報共有している。
- ・横浜子育てサポートシステムでの対応が難しい場合や、他の支援が活用できそうな依頼については、一時預かり施設や送迎サービスなどの情報収集を行い、必要に応じて情報提供できるようにしている。

評価の理由(区)

- ①・各地区町内会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会、小学校・中学校校長会、保育園園長会、主任児童委員会、広報よこはま中区版等にて拠点での子育てサポートシステムの事業内容や入会説明会の周知を行っている。
 ・サポートが必要な方を乳幼児健診等で把握し、個別支援を通して周知を行っている。
 ・「中国語を母語とする方のための妊婦教室」などでも子育てサポートシステム事業の情報提供を行っている。
 ・提供・両方会員予定者研修会の講師の派遣を調整するなど、拠点と連携して研修を実施している。
- ②・訪問や相談対応時に養育者のニーズを把握し、状況に応じて情報提供するなど、必要な家庭への利用につなげた。
- ③・区と拠点との定例会にて利用者の状況を確認し、一時保育等の相談時に個々の状況に応じて子サポの案内をしている。
 ・双方の会員が安心して利用できるよう、個人情報の取り扱いに関しても、運営点検をして管理の徹底を行っている。
- ④・区と拠点との定例会にて個別の利用や相談内容について情報共有し、必要に応じて相互の支援につなげている。
 ・専門対応が必要と考えられる相談については他機関との連絡調整を行うことで、支援につないでいる。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・地域に向けて子育てサポートシステム事業を周知するほか、拠点でのひろば預かりを行うことで、拠点利用者が子育てサポートシステムの具体的な活動の様子を知るきっかけとなった。利用を検討している方が子育てサポートシステムをより身近に感じられ活動件数の増加につながった。
 - ・地域の見守りが必要な家庭や緊急性の高い依頼に対して迅速に動き、個々が支援につながるよう、臨機応変に対応することができた。
- (課題)
- ・更なる提供会員の確保に向けて、周知を継続的に行う。利用ニーズの多い地域については、利用しやすい事業の取り組み、強化を図る必要がある。
 - ・子育てサポートシステムの利用状況から子育て世帯の課題やニーズを分析し、支援関係者と地域課題の共有をはかる必要がある。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。
- カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。
- キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。
- ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直しなど)
- コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。
- サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

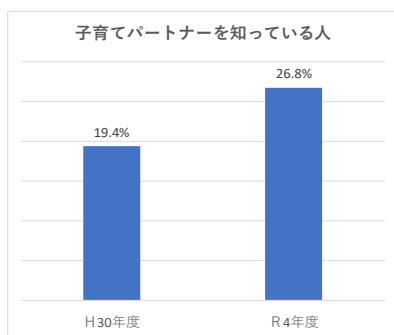
目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・より多くの区民に広く認知されるよう、周知方法について検討を重ね、継続的に取り組む必要がある。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	B
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

【H30年度およびR4年度のんびりんこ子育てに関するアンケート調査】

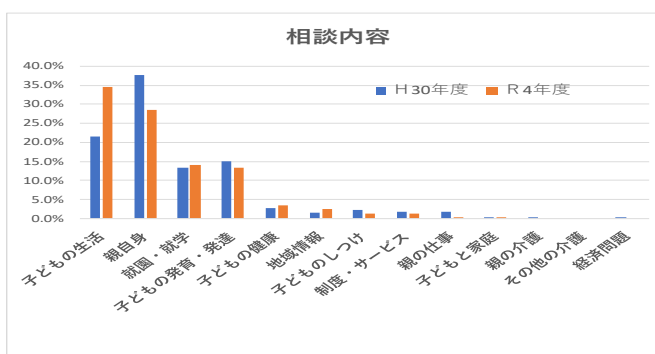
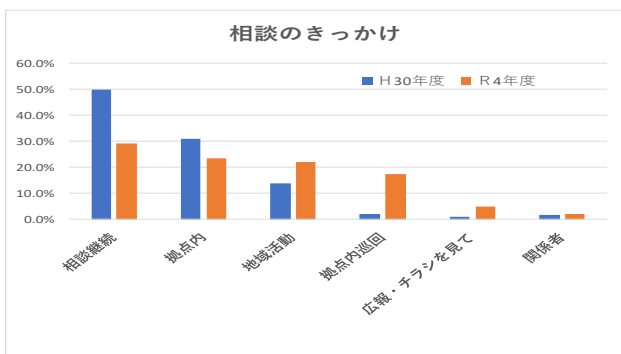
【H30年度およびR4年度利用者支援相談月報集計表】



	相談件数	(継続)	(新規)	地域訪問回数
H30年度	312	156	156	65
R4年度	189	55	134	41

	母	父	祖母	祖父	プレママ	プレパパ	その他
H30年度	90.3%	5.6%	1.0%	0.0%	0.5%	0.5%	2.0%
R4年度	93.1%	2.5%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	3.2%

【H30年度およびR4年度利用者支援相談月報集計表】



【R4年度地域訪問状況】

子育てサロン(7会場)、親子のひろば(5会場)、赤ちゃん学級(7会場)、保育園、児童発達支援教室など延べ41回

1 継続的な周知

・拠点内外での活動時や区の事業(両親学級、4か月健診、赤ちゃん訪問など)を通してチラシを配布するなど、広く周知活動を行っている。

・拠点内事業開催時に利用者へ直接周知し、またホームページやすくすくモバイル等で子育てパートナーの相談可能日を掲載するなど、気軽に相談出来る関係作りや機会を設けている。

2 寄り添った対応と適切な支援

・相談者のニーズを把握できるよう、常に寄り添った対応をしている。また、相談者を適切な支援に繋ぐため、新たな地域資源を訪問するなど情報収集や関係作りを進めるとともに、相談対応に必要な研修を受けている。

・ひろばや子育てサポートシステムと連携し、幅広く親子に寄り添った支援と継続的な見守りができるように取り組んでいる。

3 関係機関等との関係作り

・拠点事業や関係機関で把握した課題やニーズを共有することで、新たな拠点事業(「にじいろ～発達が気になる子のおしゃべり会～」「40代ママの会」「親子であそぼう～子育てサロンあのね特別バージョン」)の実施に結びついた。

・関係機関との会議や地域資源への訪問、共催事業やネットワーク事業を通して地域資源や地域の支援者との関係性が深まり、情報共有や連携ができています。引き続き新たな資源やネットワークの構築に取り組んでいく。

評価の理由(区)

- ①・利用者支援事業について福祉保健センターからのお知らせや中区おでかけスポットマップに掲載した。また母子健康手帳交付時やこんにちは赤ちゃん訪問時に拠点紹介資料を配布し利用者支援事業の周知を行っている。
 ・赤ちゃん学級では定期的に子育てパートナーが出向く機会を設け、気軽に相談できるきっかけづくりを行っている。
- ②・区と拠点での毎月の定例会において相談事例の報告や対応について確認し、より適切な支援が出来るよう助言している。
 ・子育てパートナーを含め、拠点スタッフ向けに研修を開催し、相談スキル向上が図れるよう支援している。
- ③・毎月の定例会で事例共有を通して支援方針や関係機関との連携について確認を行っている。
 ・拠点スタッフが合同園長会、子育て支援者、こんにちは赤ちゃん訪問員、主任児童委員、地域ケアプラザ等の定例会に参加し、利用者支援事業と地域の関係者や団体が連携できるよう支援している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)・幅広い相談に対応できるように日頃から情報の整理をし、適切な情報を提供することができている。
 ・相談者に対して傾聴し、ニーズを把握して対応している。また必要に応じて区や関係機関と連携し役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっている。

(課題)様々な相談から見えてきた課題を関係機関と共有し、拠点事業の見直しやネットワークをさらに活用した新たな資源の創出につなげていけるよう取り組んでいく必要がある。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内でのパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなぎ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。
- カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。
- キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。
- ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。